

7. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学ボランティア・NPO 活動センターは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働で運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、他の学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネーション、チラシ整理や SNS などの情報提供、ボランティア活動を促す様々な企画など、学生スタッフに求められる要素は多岐にわたるため、幅広い知識や経験が必要となります。

このことからセンターでは、ボランティア活動を推進するために、社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフを育成するとともに、組織運営力、コーディネーション力をつけることなどを目的に、学生スタッフを対象にした様々な研修機会を提供しています。

この他、学生スタッフミーティング（毎週開催）や、ボラセン会議（ほぼ毎月開催）において、学生や教職員の企画提案等について意見交換を行ないます。さらに、教職員で構成される意思決定機関であるセンター委員会には、学生スタッフ代表がオブザーバーとして参加します。こうした会議への参加やセンターの運営への参画が、学生スタッフの育成に大きく関与しています。

事業名	2023年度新入生歓迎行事（深草）
実施日程	2023年4月1日～5月31日
実施場所	龍谷大学深草キャンパス内
参加人数	ガイダンス参加者126名、交流会参加者50名
企画メンバー (コアメンバー)	神月麻伽（文学3） 富銅柊介（文学3） 山下陽菜乃（文学3） 太田早紀（経済3） 掛川大輔（経済3） 八田知紗（経済3） 榎 海斗（法学3） 松田理莉緒（経済2） 西林勇貴（政策2）

1. 経緯・目的

- ①学生スタッフの役割について理解してもらい、学生スタッフ活動への参加を呼び掛ける
- ②新入生に対してのボランティア・NPO 活動センター（以下センター）の周知並びにセンターの利用促進

また、従来は学生スタッフ希望者を年間通じて受け付けていたが、学生スタッフオリエンテーションを見据え、募集期間を5月末日までとして各募集活動に取り組んだ。

2. 概要

〈班〉

学生スタッフ全員を以下の4つの班に分ける。

- ・デザイン班…新歓活動時に使用する立て看板、サンドイッチ看板、ブース上の看板、ブース内宣伝用アイテムの作成
- ・SNS 班…X や Instagram などの SNS を活用し、新歓ガイダンスやブースの情報などを発信。
- ・ガイダンス班…ガイダンスに使用するパワーポイントや、説明をする学生スタッフ用にガイダンスの台本を作成。春研修後に学生スタッフ向け新歓説明会を実施。
- ・データ管理班…チラシや看板に記載するガイダンスの申し込みフォームの作成や申し込んでくれた学生のデータ管理、ブース設置日及びチラシ配布日、ガイダンスの時の学生スタッフ用のシフトの作成。

〈新歓活動期間〉

実施日…4月2日(日)～6日(木)※土日含む内、ブース設置日4月3日(月)～6日(木)

チラシ配布枚数…2600枚

〈ガイダンス〉

開催方式…対面(センター内)

開催日時…4/10(月)、12(水)、18(火)、24(月)、26(水)、5/9(火)
各12:45～13:15/17:00～17:30
4/14(金)、20(木)、5/11(木) 各12:45～13:15

参加人数…126名

〈交流会〉

目的…当初予定になかったが、学生スタッフと新入生の交流を図るためにガイダンス後いくつかの日程で交流会を実施。

開催方式…対面(成就館内)

開催日時…4/12(水)、18(火)、26(水)、5/9(火) 各17:30～18:30

参加人数…50名

また、新歓期間終了後、新学生スタッフ・現学生スタッフ間の親睦を深めるための新学生スタッフミーティングを実施。



3. 参加者の声・得られた効果など

〈理解度と感想〉

Google フォームを使用してガイダンス後にアンケートを行ない、学生スタッフについての理解度と感想を記入してもらった。

ガイダンス参加者にアンケートを実施。

「本日のガイダンスを受けて、学生スタッフについて理解できましたか？」

※5段階で1が最高値とする

回答数113名

結果 1:52名、2:48名、3:9名、4:4名、5:

0名

理解度平均 1.7(小数第2位で切り上げ)

概ね1～2までの高評価を得ており、5(全くわからない)を選択する人を0にすることができた。

〈ガイダンス参加者の感想 ＊一部紹介〉

- ・どの活動も面白そうでとても興味が湧いた。ただボランティアをするだけでなく、情報を共有することで振り返りができ学びを得られるため、自分の成長につながる活動ができそうであると感じた。
- ・地域の子どもたちと触れ合うのが楽しそうだった。センターはボランティアをするだけだと思っていたので活動内容を知って驚いた。

〈新歓の結果〉

新たに加入した新学生スタッフの数は48名となり、目標としていた、昨年度の加入人数(20名)を大きく超える結果となった。

新歓活動期間から積極的にSNS、特にInstagramでの広報を行ない、またブース勧誘時に積極的に公式Instagramの宣伝を行なったことにより、フォロワー数が86名→200名と大きく増加した。

4. 学んだこと・今後の課題

〈準備期間〉

- ・コアメンバー制にしたことにより、例年より作業の分担、割り振りがうまくいった。
- ・それぞれの班の役割をもっと明確にしておく。
- ・個々人にもっとフォーカスして役割を振っていく。

〈新歓期間中〉

- ・昨年度の反省を活かし、ブース内でセンターを紹介するアイテムを置いたため円滑に広報が行なえた。
- ・前回よりブース設置日が多かったが、シフトに入った学生スタッフ全員で新歓活動に取り組めた。
- ・ブース勧誘時にSNSの存在を積極的に周知することができた。
- ・目的としていたセンターの周知も積極的に行なっていたが、新歓期間中センターの来室者の対応ができていなかったため、シフトの役割にセンター待機を作っておくべきだった。

〈ガイダンス〉

- ・昨年より分かりやすい説明を行なえたが、もう少し内容を簡潔に圧縮したスライドの作成ができれば

ばよかった。

- ・学生スタッフとコーディネーターで説明が重複しないようにうまく調整する事ができた。

〈交流会〉

- ・企画の時点では予定はなかったが、ガイダンスでは参加者とあまり交流することができなかったため、急遽交流会を企画し、短期間で準備し開催することができた。
- ・交流会内で新入生が仲良くなり、そのまま学生スタッフに加入してくれるケースがあった。
- ・企画メンバー以外の学生スタッフもたくさん参加してくれた。
- ・新歓企画時点で交流会企画を考えておくべきだった。

〈新歓を通して〉

- ・コアメンバー制にしたことのメリットも大きかったが、それでもなおコアメンバー間での役割の偏りがあった。
- ・全体を通して昨年度の反省を活かすことができた。
- ・今年度は新学生スタッフが例年以上に加入した。今年の新入生は、コロナ禍で高校生活の自由が大きく制限されてしまっていたため、コミュニティに所属することに対する意識が強かったと感じた。また、SNS 特に Instagram での広報に力を入れたことも、その一因となっている。昨年力を入れている SNS の継続的な運営が実を結んだ結果となった。

〈報告者：榎 海斗〉

事業名	2023年度新入生歓迎行事（瀬田）
日時／場所	2023年4月2日～5月31日／瀬田キャンパス内
参加人数	ガイダンス参加者：86名、交流会参加者：17名
企画メンバー（学生スタッフ）	池本結希菜（社会3） 亀田暖人（社会3） 川口克基（社会3） 小池日和（社会3） 中村あや（社会3） 成川雅妃（社会3） 丸山汰一（農学3）

1. 経緯・目的

新入生に学生スタッフの活動内容をしっかりと理解してもらい、ともに意欲を持って学生スタッフ活動に取り組む学生を募集する。

また、従来は新スタッフ希望者を年間通じて受け付けていたが、学生スタッフオリエンテーション研修への参加を見据え、募集期間を5月末日までとして各募集活動に取り組んだ。

2. 概要

学生スタッフ全員が、以下の4つの班に分かれて活動を行なった。

① 新歓広報班

- ・新歓用チラシの作成
- ・SNS 投稿：2023年3月19日～4月14日まで学生スタッフの SNS アカウントで「センターの魅力・アピールポイント」の紹介（Instagram15回／X16回）

② ブース班

- ・チラシ配布や呼び込みによってブースに来た学

生に対し、センターの紹介や学生スタッフの役割を説明した。

- ・ブース出展日：4月3日（月）～5日（水）
- ### ③ ガイダンス班
- ・学生スタッフとコーディネーターがセンターについての説明を行なう
 - ・実施回数：4月12日（金）～5月12日（日）の間で計9回（昼休み）
- ### ④ 交流会班
- ・学生スタッフ希望者が既存スタッフと交流しながら活動について質問したりコーデを体験する会の開催
 - ・実施回数：4月24日、5月9、17、22日の計4回（4講時）

3. 参加者の声・得られた効果など

社会学部が深草に移転することを視野に入れて、農学部と先端理工学部に対して積極的に呼びかけた結果、26名（社会学部：17名、農学部：3名、先端理工学部：6名）もの新スタッフ加入という結果となった。

参加学生の声と各班のふりかえりは以下の通り。



【アンケート結果と参加者の声】

当初たてていた「満足度平均4.2以上」という目標値に対し、4.2～4.7という数値が得られた。

●ガイダンス

「ガイダンスの説明内容は分かりやすかったか?」「パワーポイントの見やすさ」「満足度」に対して、8割が5段階評価で4以上に回答したことの他、以下の声を得られた。

- ・ボランティア活動するだけと思っていたので、様々な活動を行なっている事を知れて良かった
- ・楽しく説明を聞く事ができた

●交流会

初の取り組みであるコーデ体験を行ない、「学生スタッフについて理解できたか?」「全体の満足度」などの問いに対して9割が5段階評価で4以上に回答したことの他、以下の声を得られた。

- ・学生スタッフが盛り上げてくれたので楽しく参加できた。
- ・コーデ体験で学生スタッフの活動を理解することができた。
- ・幅広い分野のボランティアがあることを知り、実際にボランティアに参加してみたいと思った。

【各班の振り返りで出た良かった点】

① 新歓広報班

- ・チラシの色を目立つピンクにしたため手にとってもらいやすかった。
- ・SNSはInstagramとXで登場する人を変え、当初の計画通りスムーズに投稿できた。

② ブース班

- ・定期的なミーティングを行なっていたため、計画的に進められた
- ・毎回配ったチラシの枚数を学生スタッフ全員に共有したことで、モチベーション向上に貢献できたと感じる。

- ・チラシ配りのメンバーがブースに上手く誘導してくれたので、説明を聞きに来た学生が多かった。

③ ガイダンス班

- ・ガイダンスの日程を早く決めていたので、準備を計画的に進められた。
- ・センターの取り組みと学生スタッフの活動内容について、参加者が理解しやすいように工夫して説明できた。

④ 交流会班

- ・内容を班員で決めきれなかった時に、班以外の人にアイデアを呼び掛けて意見を貰うことができ、全体で協力し合えた。
- ・アイスブレイクが盛り上がり、参加者が話しやすい雰囲気をつくることができた。

4. 学んだこと・今後の課題

全体として、③ガイダンス班と④交流会班の2班の準備・活動期間が長く、活動が先に終わった①新歓広報班、②ブース班のメンバーの中には手持無沙汰な学生スタッフもいた。そのことから「来年度はブース班と新歓広報班を合併させる」「班長間の進捗報告ミーティングを行ない、班員調整を行なう」という意見が各班長から出てきた。

【各班の振り返りで出た課題と改善点】

① 新歓広報班

- ・今年度のように中央執行委員会へのチラシ提出期間が短い時は、チラシ掲載内容（各種日程など）について日程調整などを各班が協力して早急にする必要がある。
- ・ガイダンス開催時間について「昼休み」としか記載しておらず、遅れて来る人もいた。チラシ内容の進捗を学生スタッフ全員に共有し、意見を募るようにしたい。
- ・SNS投稿について数値目標を決めずに取り組んでいたが、今後はインプレッション数などで予め目標を決めたり、ハッシュタグなどで閲覧数が増えるような工夫をしていきたい。
- ・SNS投稿者に制限があるため、投稿できる人に作業が偏ってしまった一方で、他の班から「ガイダンスや交流会の様子も投稿して欲しかった」という声があった。今後は投稿者以外でも何ができるかを意識しながら、取り組んで行く。

② ブース班

- ・チラシ配布数が予想より多く、途中で増刷したの

で、最初から多めに準備しておくべきだった。

- ・チラシ配りとブースの各シフトで当日欠席があったり、休憩時間を決めずにシフトを組むなどで人数が偏ってしまった。対策として班メンバーはシフト人数として数えず、人手が足りない時の補助役に回る

③ ガイダンス班

- ・当日の機材準備に思ったより時間がかかってしまったので、対面でのリハーサルを行なっていく。
- ・役割分担に偏りがあったので、見直していきたい。
- ・アンケートに「4限に開催して欲しかった」の意見があったので、開催時間の見直しを行なう。
- ・間際の申込が多く、オリエンテーション研修運営準備にも影響があったので、ガイダンスの開催期間を4月中に短くする。

④ 交流会班

- ・定期ミーティングの出席率が低く、班内での意見交換ができなかった一方で、初の取り組みも行なう方向でいたため、内容が決まるまでに時間がかかった。今後はミーティングの日程調整を含めて、早めにとりかかるようにしたい。

前年度の反省から、今年度は各班の情報を共有する仕組みとして班長のLINEグループを作ったが、議事録を共有する以外にあまり活用できなかった。そのため、来年度は班長が集まってミーティングをする等、班同士の円滑な連携をとっていきたい。

〈報告者：成川 雅妃〉

事業名	2023 オリエンテーション研修			
実施日程	6月17日（土） 6月18日（日）			
実施場所	龍谷大学深草キャンパス 3号館地下食堂			
参加人数	学生スタッフ104名（1日目）、99名（2日目）			
企画メンバー （学生スタッフ）	馬越友梨（文学3） 田淵勝士（法学2） 萩原千絵（社会2）	馬場康世（文学3） 霧田優斗（法学2） 土屋朝揮（農学2）	成川雅妃（社会3） 松田理莉緒（経済2）	丸山汰一（農学3） 倉田若奈（社会2）

1. 趣旨・目的

オリエンテーション研修は、ボランティア・NPO活動センター（以下、センター）の役割と学生スタッフ活動について正しく理解すること及び学生スタッフ同士の関係構築を目的として毎年実施している。

今年度のオリエンテーション研修は、「学年や立場を超えてサポートし合える環境を伝え、挑戦かつ成長できるチャンスを掴む。」を目標とする。センターには、何かやりたいことがあったときに、周りの学生スタッフや職員などからサポートしてもらえる環境が整っている。しかし、そのことに気づいていない学生スタッフが多いように思う。そのため、そういったサポートし合える環境があることを伝えたり、ワークを通して自ら気づいてもらうことで、研修後に積極的に活動し、成長のきっかけとなるようにオリエンテーション研修を実施した。

2. 概要

(1) 日時：

2023年6月17日（土）

研修 10：00～17：00

懇親会 17：30～19：00

6月18日（日）

研修 10：00～17：00

(2) 場所：深草キャンパス 3号館地下食堂

(3) 内容：

〈1日目〉

① センター理解&学生スタッフ理解（CD担当）

センターのこれまでの歴史を振り返り、今後の活動について考えた。センターが求める7つの学生スタッフ像を目指すために、具体的にできることを考え日々の活動で実践していこうという意識につながった。次にボランティア活動についての理解を深めるためのレクチャーを行なった。

また、卒業生（元学生スタッフ）を招き、ボラン

ティア活動や学生スタッフ活動といった学生時代の活動が、今にどうつながっているかといったお話をしていただいた。

② 班活動ワーク（コアメンバー担当）

瀬田・深草それぞれの班員から所属している班活動について紹介してもらった。その後、班活動において瀬田・深草間で連携できる部分について考えるワークを行なった。以下のような意見が出た。

- ・深草のアクティブ班と瀬田の発掘し隊で行なったボランティアについて共有する
- ・瀬田・深草広報班で一緒に広報誌を作る
- ・模擬コードの感想を瀬田・深草で共有する

③ 懇親会

学生スタッフ同士が仲良くなることを目的に、ジェスチャーゲームや「ito」というゲームなどをチーム対抗で行なった。また、懇親会の余興に石原センター長にも参加してもらい、とても盛り上がる内容になった。

〈2日目〉

④ コーデワーク（CD 担当）

ボランティアコーディネーターの8つの役割について説明し、コーデシフトをより良い時間にするために何ができるかを考えるワークを行なった。その後、模擬コードの実演を見て、相談受付シートの書き方やその意味について考えるワークを行なった。

⑤ 学生企画ワーク（コアメンバー担当）

2022年度に実施した「龍谷キッズふれあいパーク」という学生企画を元に、企画の流れを理解してもらうワークを行なった。企画の始まりから終了報告を行なうまでに必要な準備について、いつまでにどんなことをしなければいけないかをグループで考えるワークを行なった。また、過去に実施した大津祭とポッチャ体験の学生企画について、企画の立ち上げ経緯や企画を通して学んだことを発表した。アンケートでは、企画を立ち上げたい、企画に積極的に参加したいといった意見が聞かれ、学生企画について前向きなイメージを持ってもらえたのではないかと感じる。

⑥ ボランティア紹介ワーク（コアメンバー担当）

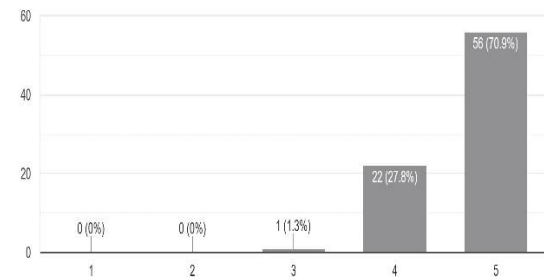
先輩学生スタッフから、自身が活動に参加している、子ども、農業、スポーツなど多様な5つのボランティア活動についてプレゼンを行なった。また、プレゼンを聞き、どのボランティアに行きたいと思ったかを話し合うワークを行なった。グループワークでは実際に「このボランティアに行きたい」といった声も聞かれ、学生スタッフのボランティア

参加の意欲につながったと思った。

3. 参加者の声・得られた効果など

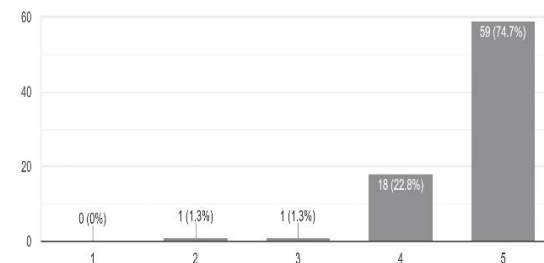
ボラセンのことを十分に理解できましたか？

79 件の回答



様々な人と協働することのイメージができましたか？

79 件の回答



上記の2つの回答より、本研修の目標は達成できたのではないかと感じる。

また、アンケートで「この研修に参加して挑戦してみたいと思ったことは何ですか？」という質問をしたところ、以下のような回答が得られた。

- ・企画のコアメンバーをやりたい
- ・様々な分野のボランティアに行く
- ・様々なボランティアに参加して経験を積み、ボランティア企画を立ち上げたい

これらのことから、本研修を通して、ボランティアや企画に積極的に参加したいと思ってもらえたのではないかと感じる。今回学んだことをこれからの活動で実践していってもらいたい。

以上のことから、本研修の目的である「センターの役割と学生スタッフ活動について正しく理解すること」を達成できたのではないかと感じる。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・各ワークでコアメンバー以外の学生スタッフを巻き込み、学生スタッフ全員で作りに上げるオリエンテーション研修が実施できた。
- ・参加者が多く、特に新スタッフの参加率が良かった。参加の呼び掛けは、LINE グループだけでなく、ミーティングや個別の声かけも行なった。そ

のため多くの参加者が集まったと考える。

- ・ワークを考える上で、どうしたら新スタッフに理解してもらえるかという部分を重視して考えたが、自分たちの伝えたいことを正しく伝えるということが難しかった。グループワークでは、先輩スタッフにファシリテーター役をお願いし、事前にワークの説明も行なっていたが、「グループ内での進捗が難しい」という意見が聞かれた。学生スタッフ全体として、ワークショップの経験を積んでいくことが必要だと思った。
- ・コアメンバーの定期ミーティングについての課題が多かった。定期ミーティングでは、各ワークでの進捗報告を行なっていたが、自分が担当のワー

ク以外の進捗状況を把握しきれていなかった。コアメンバー内で、サポートし合える環境があまり作れていなかった様に感じる。



〈報告者：丸山 汰一〉

事業名	夏合宿（深草）
実施日程	2023年9月13日（水）10：50～14日（木）15：00
実施場所	近江希望ヶ丘ユースホテル
参加人数	1日目59名、2日目60名
企画メンバー （学生スタッフ）	千葉圭喜（文学4） 大原健太郎（経営4） 的場美佳（文学3） 八田知紗（経済3） 影裡天音（経営3） 奥田真史（政策3） 田渕勝士（法学2） 佐藤莞汰（文学1） 上地史紘（経済1） 赤木まなか（法学1） 宮田千穂（法学1） 中西晴空（政策1） 宮部汰晴（政策1） 今野優花（国際1） 井上陽香（心理1）

1. 経緯・目的

今年度は多くの新スタッフに加わり、学生スタッフ一人あたりの上回生と話したりする交流の機会やボランティアコーディネーションの経験が不足している。この前期の活動の課題を解決し、後期のセンターの活動をより良い積極的なものにするためにこの夏合宿を企画した。また、懇親会等を通して学生スタッフ間の交流をはかる。

2. 概要

○スケジュール

《1日目》

10：50～11：05	オープニング
11：05～13：05	コミュ力向上ワーク
13：05～13：45	昼休憩
13：45～15：45	4回生ワーク
15：45～15：50	休憩
15：50～16：50	交流会
17：00～19：00	夕食（BBQ）

19：00～19：30	花火
19：30～22：00	お風呂
《2日目》	
7：00～8：00	朝食
9：30～11：30	コーデ力向上ワーク
11：30～12：30	昼食
12：30～14：30	体験談ワーク
14：30～15：00	クロージング・片付け

○内容

- ・コミュ力向上ワーク
リアクションの良い例と悪い例を挙げてそれぞれの話し手に与える効果を確認した後に、グループワークや発表を通して学んだ良い反応を実践した。
- ・ボラゴン作成ワーク
説得力のある企画書を作成する練習として広報誌の企画書を作成するとともに、広報誌作成を含めた学生スタッフの日々の活動はコーデの一環であることを伝えた。

・コーデ力向上ワーク

来室者と団体について深掘りして来室者がどんなボランティアに適しているかを考えた後、模擬コーデを通してコーデ力を高めた。



・体験談ワーク

幹部、班長の役割について学び、リーダーを手助けしたり目指す機会にするために実施した。グループワークではボランティアの体験談を話し合い、コーデする上で重要なボランティアの知識や伝える力を身につけた。

・懇親会

交流会・BBQを懇親会のコアが担当して企画した。レクリエーションなどを通して学生スタッフ間の交流を深めることができた。



3. 参加者の声・得られた効果など

○参加者の声

(全体)

- ・コーディネートや日々の活動について考える時間があり、学生スタッフと仲良くなる機会もあったのでとてもいい合宿でした。
- ・とにかく楽しかった！ワークも懇親会もBBQも学生スタッフのみんなと過ごせたことが幸せでした。

(コミュ力向上ワーク)

- ・反応があるほうが話しやすかったし、反応をもらえると嬉しいと感じた。今後は話を聞く態度を意識して改善したいと思った。

(ボラゴン作成ワーク)

- ・広報誌からコーデにつながるがあるという発見がありました。広報誌の記事を作ることでコーデの練習にもなるのはまさにそう！と思えました。

(コーデ力向上ワーク)

- ・自分のコーデを人に見られることがあまりないので、とても新鮮だった。フィードバックをもとにコーデ力を磨いていきたい。

(体験談ワーク)

- ・実際に幹部や班長にその役割や活動内容について聞くという機会がなかったので、とても貴重な体験になってよかった。同じボランティアに対する様々な考え方があることを改めて認識することもできた。とても充実したワークだった。

○コアの声

- ・大きなトラブルが起きずに終われてよかった。みんなが楽しんでくれたり、しっかりと考えてくれて嬉しかった。
- ・ワークを通して課題を伝えることができた。また、ワーク以外にも交流会などで先輩や新スタ同士で交流を深めることができた。

○得られた効果

- ・4種類のワークを二日に分けて行なったが、どのワークも積極的に取り組んでいる様子だった。また、各ワークのアンケート結果も高い評価のものが多数であり、ワークを通して前期の活動の課題を認識して解決に向けて取り組むことができたと考えられる。
- ・夏合宿全体のアンケートからは、ワークについてだけでなく宿泊や懇親会についての感想が多く寄せられていた。夏合宿を通して多くの学生スタッフと交流することができたという意見があり、学生スタッフ間の関係が深まって今後の活動におい

て関わりやすくなったといえるだろう。

4. 学んだこと・今後の課題

- ・当日の進行がスムーズになるように、原稿の用意やPCの操作を確認しておくべきだった。また、準備段階から発表する状況や本番を予測して考えておくべきだった。
- ・参加者に対する事前の情報共有が不十分だった。また、連絡はできるだけ早くすべきだった。
- ・新スタッフにファシリテーターを任せたり、難し

い内容のワークをするときは、コアメンバーや上回生によるサポートを手厚くしてワークが円滑に進むように努めるべきだった。

- ・当日は、コアメンバー間で役割分担をしたり連絡を取り合えたので臨機応変に対応できていた。
- ・後期の活動で改善できていないところがあるので、学んだことを実践させるような誘導が必要だと感じた。

〈報告者：田淵 勝士〉

事業名	瀬田夏合宿 ～Poppin' Summer 2023🍉～
日程	2023年9月11日～12日
場所	近江希望ヶ丘ユースホテル
参加人数	学生スタッフ36名 コーディネーター1名
企画メンバー (学生スタッフ)	小橋未沙(社会2) 白川ひかる(社会2) 関 鉄仁(農学3) 川口克基(社会3) 亀田暖人(社会3) 木部美沙紀(社会2) 佐田穂花(社会2) 澤 彩佳(社会1) 相馬大耀(農学1) 細見恭大(社会1) 安田 心(先理1)

1. 経緯・目的

新歓活動により、多くの新スタッフが加わった。しかし、大人数ゆえに関係性を築いたり、意見を発言することや情報共有が難しかったりと課題もある。また、企画を立ち上げる際の知識も乏しい。そのため、以下のことを目的に夏合宿を行なう。

- ・後期に向けての信頼関係を築く。
- ・各班の課題や強みを知り、班同士の協力体制を強化してセンター全体の活動を活発にする。
- ・企画を立ち上げたり動かしたりすることに対し、積極的に関わられるようになる。
- ・後期の龍谷祭展示で災害について説明できるようにする。

2. 概要

【1日目】

12:30 開会式

12:40 振り返りワーク

班活動・ボランティア・コーデなど7つの項目について、ワールドカフェ形式で各自が歩き回りながら自分の前期の活動を振り返った。

14:20 班のお悩み相談会

各班が抱えている現状の課題や悩みを全体共有し

たことで、学生スタッフ全員で解決策を考えた。班同士の連携が強化できるような以下の意見が出た。

- ・コーデ班：コーデ日誌の「おすすめボランティア」に書く内容の活用方法→SNSでの発信や広報誌への記載など、広報班と協力可能
- ・広報班：学生スタッフのボランティアの感想をSNS発信できていない。→発掘し隊が参加したボランティア先の情報や感想を投稿すると良い
- ・環境整備班：ご意見BOXの有効な活用方法→意見が欲しいテーマを決めて、期限を設ける
- ・共通課題：①班ミーティングの参加率が低い→事前に議題や内容を共有し、欠席者も把握しておく。ミーティング頻度をあえて少なくし、なるべく多くのメンバーがピンポイントで参加できるようにする。
②来室者を増やす方法→TikTok 動画を作り、ボラセンの魅力を伝える

16:20 1日目振り返り

17:00 夕食～交流会

23:00 就寝

【2日目】

7:00 朝食

9:00 コミュニケーションワーク

「先輩後輩関係なく意見を言い合える環境をつくるために必要な要素」は何かを考えた。意見を否定しない・リアクションをするなどの項目を重要だと思う順番に並び替えて、ランキングを作成した。

10:10 企画ワーク

「来室者を増やす」ために、どのような企画ができるか考えた。趣旨目的・役割分担など、実際に企画を立ち上げる際に必要なものを考えてもらう良い機会になった。(例：学生スタッフの活動している団体のボランティア説明会など)

12:00 昼食

13:10 災害ワーク

防災対策や防災グッズについての知識を深めたり、実際に南海トラフ地震が発生することを想定してシミュレーションを行なった。

15:00 2日間の振り返り

15:30 閉会式



3. 参加者の声・得られた効果など

下記のワークについては事後アンケートを行ない、35名（企画メンバーを含む）から回答を得た。満足度を4段階評価（最低評価：1、最高評価：4）で質問した。全体の満足度は4が20名、3が13名、2が1名、1が1名であった。また、各ワークショップの満足度は4と3の回答が多かった。

	4	3	2	1
班のお悩み相談会	23	12	0	0
コミュニケーションワーク	21	13	0	0
企画ワーク	18	17	0	0

参加者の感想は以下の通り

- ・ボランティア日記をつけ、新鮮な感想を忘れないようにしようと思う。(振り返りワーク)

- ・固定の班メンバーでは新しい意見が出てこず解決方法が見つからなかったが、他の班に悩みを共有することで新しい視点からの意見が貰え、解決につながった。(班の悩み相談会)
- ・ワークを通して、企画の組み立て方や自分ならどんな企画を作るかを考えることができた。グループでの話し合いで、皆がどんなことに興味があるのか、予定の立て方など個人によってバラバラであることを知る機会になった。(企画ワーク)
- ・学生スタッフ同士でも、話し合いの場で大事にしているところが違うのだと気づいた。発言する側も聞く側も、お互いが納得して意見を言い合えるような話し合いの場を作っていこうという意識が共有できた。(コミュニケーションワーク)
- ・グループで災害時どのような対応をとるのか考えるのが意外と難しかった。被災する前にあらゆるパターンを想定しておくことが大切だと思った。災害の知識を得るために今後もセンター事業などに参加して、より知識を蓄えたい。(災害ワーク)



4. 学んだこと・今後の課題

- ・ミーティングを週1回行ない、毎回スケジュールと各ワークの進捗状況を共有した。そのため、ワークによって進度に差があったが連携しながら準備を進められた。
- ・リハーサルを本番10日前と4日前の2回行なった。1回目に流れの確認、本番の資料を用いて全体を通してワークを行ない、必要な修正を行なった。2回目では、1回目のリハーサルで出た課題を修正し、全体を通しての確認と微調整をした。これにより企画メンバー内での理解が深まった。
- ・リハーサルの際、本番通りに司会の練習が出来ていなかったため、コアの不安が大きかったり、本番で伝わりづらい部分があったりした。そのため、リハーサルで話す内容を細かく確認するべきであった。
- ・各ワークのスライド作成を本番直前まで進めていたこともあり、コアメンバー内でも担当外のス

ライド完成版を把握しきることが出来ない部分があった。そのため、当日の進行に混乱が生じた。

- ・当日機材トラブルが発生し、その対応に時間がかかってしまった。下見の際に先方の機材の確認や、

機材を用意する必要があるのかしっかり把握するべきだった。

〈報告者：小橋 未沙〉

事業名	春研修（深草） Restart ボラ real～自分たちのリアルを見つめ直して再出発～			
実施日時	2024年3月8日（金）			
実施場所	深草キャンパス和顔館 B203教室			
参加人数	27名			
企画メンバー （学生スタッフ）	田渕勝士（法学2） 平川育海（政策1） 田中あかり（心理1）	内田美羽（国際2） 宮部汰晴（政策1） 土田花実（心理1）	黒川朋生（文学1） 安場こころ（国際1）	田島優芽（政策1） 井上陽香（心理1）

1. 経緯・目的

春研修の目的は、この1年間の学生スタッフとしての活動を振り返り、次年度の活動へ活かしていくことである。今年度は、新しく入ってきた学生スタッフの数が多く、ボランティア・NPO 活動センターの活動も前年度よりも活発になったと思われる。しかし現状の課題として、学生スタッフの人数が増えたことによって一人ひとりとの交流が難しくなったことや、シフトの際に時間を持て余してしまう学生スタッフがいることが挙げられる。

そこで、春研修を通してこの1年間の活動を振り返り、活動の課題確認とその課題に対する改善点を考える。そしてセンターに所属し活動する中で、学生スタッフとしての自覚を持ち、積極的に行動できる環境を整え、具体的に次年度の活動につなげる事を目標とする。

2. 概要

3つのワークで構成した。内容は以下のとおり。

○実施項目

10：00 オープニング

コア紹介後、センターに関するクイズを実施した。

10：20 シフトワーク

1年間のシフトを振り返り、理想のシフトについて考えた。更に新スタが加わる事をふまえ、コードの伝え方について全員で考えた。

11：50 昼休憩

12：50 コミュニケーションワーク

アイスブレイク後、話す時・聞く時に大切なこと

を学んだ。その後のワークでは、会話をする際に大切なことを意識しながら、5人での会話や2人組での会話を行なった。

14：10 休憩

14：20 振り返り・目標ワーク

まず学生スタッフ HAND BOOKを確認した後に個人での活動をワークシートを使って振り返り、最後にセンターの現状をグループワークで考えた。



16：35 クロージング&写真撮影

コアメンバーと職員からの挨拶後、全体で写真撮影を行ない終了。



3. 参加者の声・得られた効果など

終了後に Google フォームを使用してアンケート

を行なった。具体的には、春研修全体の感想に加え、各ワークの感想、改善点を集めた。春研修全体と各ワークの感想から、今回の春研修は満足度が高く非常に良い研修になったことが分かった。

参加者の感想は以下の通り。

- ・個人の活動の振り返りから全体の振り返りまで1年間の活動を振り返ることができる良い機会となりました。はじめに個人のシフト時間の振り返りをし、そこから徐々にセンター全体を考える流れで構成されていたので取り組みやすかったです。お菓子を配ってくれたり、最後のワークに立って取り組んだり、長時間ながらも最後まで取り組むことができる工夫がなされていてすごいなと思いました。
- ・全体を通して、センターの現状の課題に気付いたり、その改善案を考えたりと次年度センターのためのとても良い取り組みでした。私自身も今後に向けて、今日思ったことや目標に決めたことを大切に活動していこうと思います。
- ・いろいろなワークをして、さまざまな視点から物事を見ることができて貴重な体験になった。
- ・春研修を通して1年を振り返ることができ、楽しく学ぶ、考えることが出来ました。この研修の大切さを感じたように思えます。

4. 学んだこと・今後の課題

【学んだこと】

- ・ワークのやり方や流れの説明を丁寧にする事が大切だと感じた。
- ・同じワークを担当しているメンバーに確認してもらっただけでは見えない部分もあるので、他のワークの人や幹部、コーディネーターにリハーサルで確認してもらうことの必要性を実感した。
- ・頭を使うシフトワークを午前に実施し、眠くなる午後にコミュニケーションワークを入れるなどワークの順番を工夫した。効果的に実施出来たので、ワークの順番を考える事は大切だと感じた。

【今後の課題】

- ・春研修で学んだ事を研修後に実践できるような誘導が不足していた。
- ・春研修に参加する学生スタッフの人数がそもそも少ないのではないかな。
- ・準備期間が短かったなので、しっかり準備できるようにもう少し早くからコアメンバーを募集して準備を始める。
- ・それぞれのワークが独立してしまった感があるのでワークごとの議事録や全体企画ミーティング以外でのコミュニケーションを増やす必要があると感じた。

〈報告者：黒川 朋生〉

事業名	春ワーク（瀬田）		
日時	2024年3月5日（火）14時00分～18時00分		
場所	瀬田キャンパス 3号館 105教室		
参加人数	学生スタッフ29名		
企画メンバー （学生スタッフ）	今村瑞季（社会2） 西野太洋（農学1） 久保陽菜里（社会1）	小橋未沙（社会2） 堀内 薫（社会1） 牧村恵里（社会1）	萩原千絵（社会2） 西垣風太（先理1）

1. 経緯・目的

2023年度は1年生が多く加入し、コロナ禍による規制もなくなったことを受け、より活発的に活動を行なうことができた。だが、人数が多くなったことで班活動やミーティング、企画活動など様々な場面で役割分担や情報共有の難しさなど、反省点もあった。また、2025年に迫る社会学部移転も見据

えての新歓活動やこれからの活動への懸念もある。

上記のことから、今回の春ワークを通して学生スタッフが自分たちの2023年度を振り返り、そこから出た反省を活かして2024年度の活動目標を立てることを目的として実施する。

2. 概要

以下の4つのワークを行ない、終了後も引き続き

瀬田ミーティングでの話し合いや活用方法を継続する。

①2023年度の振り返りワーク

【当日の内容】

- ・専用のワークシートを使用して、参加者同士で班活動やコーデ、ミーティング等の各テーマにおける1年間を振り返り、良かった点と反省点を挙げた。
- ・2023年度に企画代表・班長を担った学生スタッフに、活動する上で意識したことやこうすればよかったと思うことなどについて、話をしてもらった。
- ・振り返りから得た反省点をこれからの活動に活かすためにどうすればよいか、マンダラチャートに沿って具体的な行動を考え、2024年度の個人目標を立てた。

【後日の取り組み】

記入済みのワークシートについて、個人目標がいつでも見られるように各自の学生スタッフ Handbook に挟む。また、全員がそれぞれの個人目標を見られるようにワークシートをコピーしてノート化し、全員分をセンターに設置する。

②2024年度の目標決めワーク

【当日の内容】

2023年度の目標『来室者を増やす』を再確認し、今のボラセン全体の課題についてジャムボードを使用して出し合った。出た課題を解決するための行動について考え、全体共有した。

【後日の取り組み】

ジャムボードで集めた意見を担当コアメンバーでまとめ、瀬田学生スタッフミーティングにて共有して2024年度の目標を『ボラセンの認知度を上げて、入りやすいボラセンを作ろう!』と決定した。具体的な行動は、瀬田学生スタッフミーティングで話し合っていく。



③新歓ワーク

【当日の内容】

- ・班活動の再確認、新歓活動の進捗状況や班の強み、悩みをジャムボードで共有し合い、どうすれば新入生にセンターについて知ってもらえるか、興味を持ってもらえるかなどを考えた。
- ・悩み等についての解決策を考えて、班同士でアドバイスを出し合った。

【後日の取り組み】

新歓班のミーティングにて、他班のアドバイスを班内で共有する等、活用してもらった。

④幹部ワーク

【当日の内容】

学部移転を見据えて、新歓活動で何をすべきか共通認識を持つための話をした他、瀬田学生スタッフミーティングの参加率を上げるためにできることについて、ジャムボードを使用して意見を出し合った。

【後日の取り組み】

瀬田学生スタッフミーティングの参加率向上のためにできることの意見を幹部でまとめ、全体で共有してその後の瀬田学生スタッフミーティングにて活用した。

3. 参加者の声・得られた効果など

Google フォームで事後アンケートを行ない、満足度を5段階評価（最低評価：非常に悪かった、最高評価：非常に良かった）で質問した結果、29名から（企画メンバーを含む）回答を得た。

全体の満足度は、非常に良かった18名（62.1%）、良かった10名（34.5%）、普通1名（3.4%）であった。悪かった、非常に悪かったは0名（0%）であった。また、各ワークの満足度も、同じような結果となった。

参加者の意見は以下の通り。

- ・マンダラチャートで目標に向けた具体的な行動を出すことで、自分に何が必要なのかを考えることができた。（①振り返りワーク）
- ・学生スタッフの目標をみんなで話し合い、いろいろな意見が出たので、良かった。（②目標決めワーク）
- ・改めて自分の班の活動について考えることができ、他の班からも意見が貰えたので、新しい視点が得られたことが良かった。（③新歓ワーク）
- ・この春ワークは、自分たち学生スタッフが企画のことをより深く考えて関わっていくのに良かった。また、新歓ワークについてもセンターの今後はもちろん、新スタッフのために何をすべきかを考える良い機会になった。

- ・ワーク内容がリアルタイムに必要なものでよかったので、今後の活動に役立てそうだと感じた。

以上のアンケート結果と感想から、今後の学生スタッフ活動に活かせるような具体的な目標決めや話し合いが、春ワーク2024を通して行なうことができたと思う。



4. 学んだこと・今後の課題

【準備段階】

- ・ワークごとに担当メンバーを決め、役割分担をしたことで、1人の負担を減らせると感じた。
- ・最低週1回はミーティングをして進捗状況を確認することで、時間に追われることなく進められた。
- ・春ワーク2024のグループLINEにコーディネーターに入ってもらい、当日やりハの場所についての報告・連絡・相談が常にできるようにしたこと、トラブルなく場所の確保ができた。
- ・学生スタッフの目標や新歓活動の話もあるため、幹部と春ワークの企画メンバーで連携しておいた方が良かった。

【当日の内容・進行など】

- ・個人目標の全体共有だけでなく、グループで話したことも共有する時間を設けるべきだった。
- ・ジャムボードの使い方を理解できていない人がいるため、初めに使い方を説明すれば良かった。また、補足説明が必要な時など、ジャムボードでは伝えきれないことがあるため、全てジャムボードですることは難しいことがわかった。
- ・振り返りワークの企画代表・班長の話を聞くワークが聞きっぱなしのため、参加者の集中力が切れてしまった。今後は参加者が主体となれるように、質問タイム等を作り、聞きっぱなしという状況を作らないようにする。
- ・参加者が1回生中心だったため、新歓ワークでは一部想像で進める新歓班もあった。他の班の新歓活動を経験している先輩に、該当班に移ってもらう等の工夫をし、考えが偏らないようにするべきだった。
- ・全体共有の発表ルールなどを設けていなかったため、発表が長くなったグループがあった。分けて発表する、発表者を2名にするなど伝え、スムーズに発表してもらうことでタイムロスをなくす、あるいは発表に統一性を持たせることで、聞いている側が理解しやすくなると感じた。

〈報告者：牧村 恵里〉

事業名	合同春研修
実施日・場所	2024年3月21日（木） 深草キャンパス302・303教室
企画メンバー	西林勇貴（政策2） 靄田優斗（法学2） 内田美羽（国際2） 土屋朝揮（農学2） 蔵本千優（社会2） 牧村恵里（社会1） 堀内 薫（社会1） 西垣風太（先理1）
参加人数	深草：23名／瀬田：26名

1. 経緯・目的

ボランティア・NPO活動センターの学生スタッフは、ボランティアコーディネーションを実践するために研修の機会を年間3回設けています。研修の実施形態は合同かキャンパスごとか、宿泊を伴うか日帰りで行なうかなど、各回によって異なります。

春休みに行なう春研修については、ここ数年はキャンパスごとの1日実施としていました。しかし今回は2025年度に控える社会学部移転を見据えて、2024年度の1年間でさまざまなことを考えていく必要もあるため、各キャンパスの春研修を行なった後に2日目として日帰りの合同研修を行ないました。

2. 概要

学生スタッフ自身が考えるパートとコーディネーターのパートに分け、前者は各キャンパスの幹部が企画メンバーとなってワーク内容を考えました。また、全てのワークを終了した後は懇親会を行ない、両キャンパスの学生スタッフの親睦を深めました。研修の流れ・内容は以下のとおりです。

(1) 10:00-12:30 幹部担当のワーク

テーマ：学生スタッフの存在意義を考えよう！

内 容：「学生スタッフはいらない」と主張するコーディネーターと学園長を説得するという設定で、学生スタッフがなぜ必要なのかを考えました。ワークの中で、学生・地域・大学それぞれそれぞれの立場の人たちにとって私たち学生スタッフがいることのメリットを話し合い、学生スタッフとしての原点を見つめ直しました。



(2) 13:30-15:15 コーディネーター担当のワーク

テーマ：社会学部が移転したら、学生スタッフ活動やセンター事業の例えばこれはどうなるの？

内 容：社会学部移転にかかる楽しみなこと・不安なことをKJ法で出し合い、不安なことは視点を変える「リフレーミング」を通してポジティブに捉え直すワークを行ないました。また、具体的に「こんなことをやればいいのでは？」ということも出し合いました。

(3) 15:30-17:00 懇親会

ワークを考える幹部以外に懇親会を担当するメンバーを募り、両キャンパスの参加学生スタッフが楽しめるようなゲームなどを考えました。

3. 参加者の声・得られた効果など

今年度は社会学部移転のことをセンター全体で話し合う必要がある中で、深草・瀬田の幹部同士でワー

クを作りながら交流を深められたのが良かった。また、「目的」を大事にしながら進めたり、自分たちの実際の活動を振り返りながら考えることができたので、課題を身近に感じリアルに捉えられた。

当日は、ワークの導入部分で劇を行なったことで面白さもありつつワークの内容も伝えられたため、参加者に楽しんでもらえた。また、アンケートでは以下の声が得られた。

- ・「つなぐ」役割について再認識できたと思う。
- ・今まで地域や大学にとっての学生スタッフの意義を考えたことがなかったので、それを理解できて良かった。
- ・改めて学生スタッフは龍大生を巻き込む存在であることを発見できた。どうしても内輪だけで完結させてしまう癖がついてしまっているため、今後考えていかないといけない課題があることも学んだ。
- ・若者の視点で団体の方の想いを汲み取り、ボランティアを自分たちの言葉で同じ世代の学生につなぐことができるという発見があった。同じ学生だからこその安心感があり、ボランティアをより始めやすくなるという発見もあった。
- ・学生、大学、地域それぞれにとってのメリットを考えたことがなかったから、改めてどんな風に活動していくか考えられてよかった。
- ・劇やそれぞれの役に扮したコーディネーターに聞きに行く設定など、楽しみながら学生スタッフの役割について考えられた。
- ・学生スタッフの意義を考え直すと盲点もたくさんあったので、学生スタッフとしての役割を果たせるよう常日頃考えていくべきだと感じた。
- ・社会学部移転を考えたら不安な意見が多かった。しかし、リフレーミングを通してポジティブな意見に変えることで、やりたい企画が数多く挙がり、視点を変えることも重要なのだと思った。一年間の準備が活動のしやすさに直結するなと思った。
- ・社会学部移転後にどのような行動を行なえばよいのかを考える機会が作れてよかった。

4. 学んだこと・今後の課題

企画メンバー：

- ・ワークの中身に関して幹部全員で共通の認識が持てていなかったり、ワークを作る中でコーディネーターへの伝達が遅くなったりしまったため、もっとコミュニケーションを図るべきだった。
- ・ワーク中「学生・地域・大学」それぞれの立場に

扮した職員に質問する機会があったが、質問の仕方が難しかったため、分かりやすく伝えておくべきだった。

- ・班で考える時間が長すぎて班ごとで進み具合が違ってしまったため、ワークの中身を細切れにして自分たちで進行してもよかった。
- ・最後、学生スタッフの必要性を全体にプレゼンした後に何もフィードバックがなかったのが良くなかった。

コーディネーター：

今回のテーマは研修で終わるのではなく、2024年度の一年間かけて、各キャンパスのミーティングやボラセン会議などで考えて行く内容となる。移転をチャンスと捉え、より意義ある活動になるよう学生スタッフをサポートしていきたいと考えている。

〈報告者：土屋 朝揮（瀬田キャンパス代表）

ヒギンズ 尚美

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉